

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年3月5日
函館市立南本通小学校

1 本年度の重点教育目標

生き生きと自分らしさを発揮し、心豊かに学び合う子どもの育成

2 本年度の取組の重点

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| ①確かな学びの実現 | ②豊かな心と健やかな体の育成 |
| ③自信と自立心を育む生徒指導の充実 | ④共に未来を生きる子どものために |
| ⑤保護者や地域と共にあゆむ学校を目指して | ⑥育てたい姿を具体的に共有する手立ての工夫 |

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価 主な意見（改善策など）
① 確かな学びの実現	基礎的・基本的な知識や技能の習得と思考力・判断力・表現力を育成する学習指導の改善・充実を通して、主体的・対話的で、深い学びの実現できたか。	b	「主体的、対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善の推進と、豊かな表現力や個に応じた教育活動の展開に努める。	B	A 日頃の教育活動に対して、感謝しています。引き続き、CSとして授業や学校行事に参加して、ともに児童の健全育成に向けて、取り組みたいです。
② 豊かな心と健やかな体の育成	自己肯定感を高め、生き生きと自分らしさを発揮するとともに、思いやりの心や、自他を尊重する態度など、豊かな人間性を育む指導ができたか。	b	仲間との関わり合いや高め合う学習活動、CSや協働活動推進委員会を軸とした、地域の人々との関わりを深める教育活動等をさらに推進する。	B	A 特別支援教育支援員や中学校体育教師など、積極的な人材活用や地域との連携など、様々な取組によって、個性の大切さを学ぶ機会が得られていると思います。
③ 自信と自立心を育む生徒指導の充実	自らの健康や体力づくりに関心をもち、運動に親しむ等、体力の増進を図る取組が推進できたか。	a		A	A
	ふれあいと、児童理解を基盤として、一人一人のよさや持ち味を発揮させる教育ができたか。	a		A	A
④ 共に未来を生きる子どものために	悩みや不安等、子供の内面に寄り添うとともに、発達支持的生徒指導を意識した対応に努めることができたか。	a		A	A
	個々の児童のニーズに応じた、特別支援教育の充実を図ることができたか。	b	ユニバーサル・デザインの効果的な活用とともに、通常の学級における、特別に支援が必要な児童について、組織的な支援の一層の充実を図る。	B	A
⑤ 保護者や地域と共にあゆむ学校を目指して	保護者や地域と連携した、今日的な教育課題への取組や、校務の効率化等、教職員の業務改善により、児童と向き合う時間の確保に努めることができたか。	a	地域や保護者との連携をさらに深めるために、懇談や参観の実施、地域や外部人材を活用した授業の実施に引き続き努める。	A	A 協力の要請など、今後はSNS等を活用して、「手伝える人が・手伝えることを」を円滑に募集する手立てが必要だと思っています。
	保護者や地域の方々との連携を深め、開かれた教育課程の理念を踏まえた、「コミュニティ・スクール」の取組を推進することができたか。	a	保護者や地域の人材を活用し、授業のサポートや児童の見守り活動を引き続き行い、地域との連携をさらに深める。	A	A 引き続き、保護者、町会、CSが一体となって、児童の安全活動の推進に取り組んでいきたいと思っています。
⑥ 育てたい姿を具体的に共有する手立ての工夫	「教育目標の達成の姿」について、達成目標や指標、基準を学校・児童・保護者で共有し、児童の成長を見取る根拠ある評価を推進できたか。	a		A	A

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。